

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200863
法人名	社会福祉法人 聖アンナ福祉会
事業所名	グループホームたかお
所在地	和歌山県紀の川市貴志川町高尾194 (電 話) 0736-65-3382

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(21年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建て 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 840 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 780円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低 66 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立那賀病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

紀の川市貴志川地区南部に位置し、のどかな田園地帯が広がる環境のなか、法人が運営するデイサービスセンターが隣接している。1ユニット8名定員で、平屋の建物内部は広々としており利用者は日中は居室にこもらず、共有スペースで体操やカラオケなどを楽しんでいる。また日々の家事において得意部分で役割を担ったりして力を発揮出来る場面が多く、活力のもとになっている。職員もこれをさりげなく支援する中で学ぶことも多く、ともに過ごし支え合う関係がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で指摘されたのは地域とのつながりが弱いという点にあり、まだ克服されたわけではないが、地域行事への参加やボランティアの訪問等、地域と関わりを持つ取り組みを始めている。 職員は評価を日常業務を振り返るという点で意義があると理解しており、今回の自己評価については全職員が評価票に記入したものを管理者がまとめあげた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族代表、地域の民生委員、地区長、包括支援センター管理者、市職員、法人代表、グループホーム管理者・職員で構成され、ホームの現況を報告し、外部評価結果、避難訓練、相互研修、地域行事への参加等を議題とし構成員メンバーから出された意見を参考にしサービス改善に取り組んでいるが開催されるのが年1回程度と少ない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情解決委員会を設け、また投書箱も設置し出された意見は運営に反映するようにしている。家族に電話連絡の際に意見等聞き取るようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、老人会等の地域活動への参加はまだ充分なされておらず、地域との連携という点においては弱い重点項目①の取り組みと同様地域行事への参加、ボランティアの受け入れ等で地域と関わっていく為の努力に期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『一人ひとりの個性を大切にし、笑顔あふれる楽しい生活を、地域の中で共に過ごします』という理念を掲げ、サービスを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティング時や朝礼、夕礼時に職員間で理念を確認し共有を図りながら実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会などへは未加入で地域での馴染み、交流が十分とは言えない。	○	この3月、地域の初午の行事に参加し交流会を持つなどの関わりが出来たことを第一歩として今後このような取り組みを強化、発展させて自治会等の加入につなげ地域とのつきあいを深めることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員がその意義を理解し自己評価に臨んだ。外部評価での指摘事項を確認しながら改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議において参加者から地域との関わりがもてるような提案があり、実現に向け取り組みが進められているが、このところ開催されておらず機能を果たしていない。	○	運営推進会議は、家族や市の担当者とも直接話が出来るチャンスでもあり今後頻繁に開催されることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴うサービスの変更や加算の算定等、電話で相談をして関わりを持ちサービスの向上をめざし取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、家族に暮らしぶりなどの現状説明をして希望等を聞き出すよう努めている。また異動があればその際新人職員の紹介をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情解決委員会を設け家族から意見、苦情があれば速やかに対応できるよう体制を整えているが今のところ苦情はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は記録や口頭での連絡で速やかに利用者の状態を把握し、ダメージに至らないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービスケアネット和歌山に入会し研修会に参加している。内部研修についても外部から講師を招き職員が気楽に参加できるよう配慮している。常に働きながらのトレーニングができるよう職員同士気配りをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に入会し同業者との交流を図っている。相互実習等を通じて、サービス向上に向けた取り組みを進めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に至るまでに本人、家族が事前に見学等し、雰囲気等を確かめ馴染んでいけるよう配慮している。また使い慣れた家具や日用品を持ってきてもらって安心して過ごせる環境作りも支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から洗濯や料理、野菜作りなどの作業の中でちょっとしたコツや昔ながらの慣習などを教えてもらったりする事で、互いに支え合う関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で表情や態度から思いや希望をくみとってその人らしい生活が継続出来るよう努めている。困難な場合は生活歴等から本人が望むであろうケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は利用者の希望をふまえつつ、家族、必要な関係者の意見、アイデアを取り入れて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度見直しをしている。状況の変化があればその都度、関係者と話し合って作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族のニーズの変化に応じた支援が出来るよう、柔軟に対応している。家族が対応できない時の通院に職員が付き添うこともある。またお弁当を持ってお花見にいたり、外食などの支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の主治医の往診は2週間から3週間に一度行われている。また、かかりつけ医と電話等で連携を十分に図ることにより、本人、家族が安心して医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時、重度化した場合のケアの方針について確認し同意を得ている。また終末期については発生時点で関係者との話し合いを持つようにしている。	○	本人、家族、職員、主治医、関係者などで終末期に向けて早い段階に話し合いの場を持ち、意識の共有を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。また個人情報について、取り扱いには十分注意し記録類は事務所横のキャビネットに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるがそれにこだわらず、一人ひとりの利用者のちょっとしたつぶやきや表情を読みとり、本人本位のケアを心がけ支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を十分に活かしながら、調理、配膳、後片づけまでの作業を利用者が職員と共に役割分担しながら行っている。介助の必要な利用者の間に入ってさりげないサポートをしながら食卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できるようになっており、本人の希望やタイミングに合わせた支援を行い入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯物を干す、たたむ、また買い物、針仕事など一人ひとりの得意分野で力を発揮し張りのある生活を送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は外へ出て散歩をしたり、玄関前のスペースに椅子やテーブルを出してお茶を楽しむなど出来るだけ閉じこもることのないよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠することの弊害を理解しており、利用者が自由に居室、屋外へ出入り出来るようにしている。玄関は夜間のみ鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(内1回は夜間を想定したもの)消防署の協力のもと避難訓練を行っている。訓練には地域の参加協力の申し出がありさらに協力体制がとれるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事および水分摂取状況をチェック表に記録している。専門的なチェックは無いもののバランスのよい、楽しめる食事ということに気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には行事等の写真や季節を感じさせる壁飾りなどがかけられている。また、リハビリ体操のビデオや楽しみのカラオケ等も行われている。光や空調は適当と感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が作った手芸や絵、また家族の写真やプレゼントのぬいぐるみなどで飾られている。また、位牌やご本尊の礼拝が日課になっている方もおられ、その人らしく安心して過ごせるような居室作りに取り組んでいる。		